

桜 だより

鹿児島大学病院広報誌

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院と
鹿児島市立病院との連携に関する協定締結式



坪内 博仁

鹿児島市立病院との連携協定締結式

40号
2016.1

地域の皆様に世界最高レベルの医療を提供するために
神経内科

地域の皆様に世界最高レベルの医療を 提供するために

神経内科

鹿児島大学神経内科の歴史が始まったのは44年前ですが、私たちが大切にしている指針があります。もともと第三内科として出発したため“3ないか”と呼ばれたわけですが、当時の神経・筋・脳などの病気は難病が多く「分からない」・「治らない」・「でも諦めない」という3つの「ない」の3内科といわれたことがあります。このような歴史を経て、現在の神経内科学の進歩もめざましく、かなり多くの病気で原因の解明が進み治療法も確立されました。そのような中で、私たちは地域にあるため、南九州地域の病気については、どこまでも原因を追求し、解明、治療してきました。たとえば、近年メディアでも取り上げられた、世界最初の新細菌の感染症の発見は、原因不明の認知症などの脳の症状がある方々の原因をつきとめた結果であり、一人目の方から治療に成功しています。また、全国から子宮頸がんワクチンの副作用と思われる脳症の方が来院されていますが、病態解明のレベルもできており、おそらく世界で最も治療に成功していると思います。

病気を持つご本人およびご家族の苦勞を考え、今後とも諦めずに、患者さんとともに可能な限りの治療を目指していきたいと思えます。鹿児島大学神経内科はこれまで日本で最も多くの神経内科専門医を出してきた歴史がありますし、“地域の皆様に世界最高レベルの医療を提供するために”ということも本気で思っていますので、鹿児島大学病院をどうぞよろしく願いいたします。



一部の医師の意見でなく、多くの医師の眼でチェックしながら、診断や治療が決定されます



2014年11月に難病ネットワーク学会を鹿児島で開催したときの記念写真

鹿児島県の血液疾患・膠原病診療の拠点病院として

血液・膠原病内科

新任教授の紹介



鹿児島大学病院
血液・膠原病内科 科長
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科附属
難治ウイルス病態制御センター
血液・免疫疾患研究分野 教授

いしづか けんじ
石塚 賢治

【プロフィール】

医学博士、日本内科学会総合内科専門医・指導医、
日本血液学会専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
1988年 鹿児島大学医学部卒業
1988年 鹿児島大学第二内科入局
2000年 隼人町立医師会医療センター 内科医長
2001年 福岡大学病院 血液・糖尿病科医員
2003年 ダナ・ファーバー癌研究所(米国ボストン)留学
2006年 福岡大学病院 血液・糖尿病科 講師
2015年 福岡大学病院 腫瘍・血液・感染症内科 准教授
2015年11月から現職
専門は血液内科学、臨床腫瘍学

❖ 新任教授ごあいさつ ❖

昨年11月に血液・膠原病内科教授に就任いたしました。生まれも育ちも鹿児島ですが、この15年程は福岡大学に勤務し、離れた場所から故郷の医療を考える機会をもつことができました。鹿児島の医療に再び参画させていただけることを光栄に存じます。

私の夢は難治性造血器腫瘍である成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)の予後を改善することにあります。本県はATLの世界的な多発地域にあります。私どもの部門は難治ウイルス病態制御センターの研究部門のひとつでもあり、基礎から臨床まで一貫した幅広い研究を推進したいと考えています。

近年、分子標的療法や免疫療法が新たな治療戦略として台頭しています。私どもが担当する血液疾患や膠原病の治療も、日々進化しています。たとえば慢性骨髄性白血病の予後は劇的に改善し、関節リウマチの治療目標は関節変形を来さなくすることになっています。

血液疾患分野では、造血不全、造血器腫瘍、凝固異常のほか血液疾患全般の診療にあたり、自家および同種造血幹細胞移植(血縁・骨髄バンク・臍帯血移植)を含む最新の治療を広く積極的に行っています。建設中の新病棟では無菌室を増床してさらに多くの移植を行う環境が整います。

膠原病分野は、日本リウマチ学会の認定施設が鹿児島県では鹿児島赤十字病院と当院のみという背景もあり、重要な役

割を担っております。私どもが診療を担うもう一本の柱、膠原病も難治性疾患の代表です。患者さんが多く、私どもの診療科に対しての強いニーズがあることを痛感しております。診療体制の充実とより高度な医療の提供を目指したいと思います。

血液内科、膠原病内科領域の病気でお困りの鹿児島県内の患者さん方から「一番に選ばれる診療科」になることが私どもの目標です。その目標を実現するために、院内の各診療科と協力して、全力で取り組む所存です。第一線で診療にあたっておられる先生方におかれましては、私どもを御鞭撻いただくとともに、患者さんに継ぎ目のない医療が提供できますよう病病連携、病診連携等の御協力をいただきますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

割を担っております。関節リウマチは血液やX線検査に加え、関節エコー検査を行うことで診断感度が高くなりました。治療選択肢も広がり、従来からの抗リウマチ薬に加え、免疫抑制療法、抗TNF α 阻害薬等の生物学的製剤による治療も行っております。

外来は月曜日から金曜日まで毎日行っております。紹介予約制ではありますが、緊急時には医療機関から御連絡いただきましたら、対応させていただきます。

県下の医療機関の関係各位、また患者さん方と一緒に、鹿児島の医療を支えていけるようチーム一丸となって頑張っております。御指導を厚くお願い申し上げます。

(文責:医局長 井上大栄)

患者さんの口腔内を総合的に治療・管理する

歯科総合診療部

“歯科総合診療部”って一体どんなことをしているの？ 鹿児島大学病院には多くの歯科診療科があります。その中で、歯科総合診療部では、研修歯科医、指導歯科医が担当となり、虫歯・歯周病・入れ歯・歯並びなどについて、患者さんの状況にあわせて総合的に治療・健康管理を行っています。そのため、患者さんは複数の診療科を受診せずとも効率よく治療を受けることができます。お口の中で気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

また、当部は卒前教育として、「離島歯科医療実習」を担当しています。本実習は、鹿児島県の置かれた社会環境的、地理的状況を鑑みて立案したプログラムで、離島における地域医療を理解するために、現地の歯科医師、医師と行動を共にし、離島医療実践の現場見学を行うこと



歯科総合診療部での診療風景



在宅医療の見学
(与論島における離島歯科医療実習)

で、地域包括医療、多職種連携の重要性について学ぶことを目標としています。実習場所となる離島は、種子島、屋久島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島です。この取り組みを通じて、人口の超高齢化に伴い劇的に変化する歯科医療のニーズに対応しつつ、地域に根ざして医療を実践する人材の育成にも努めています。

<初診受付>月～金(9:00～16:00)

TEL 099-275-6605

定期健診(入院前の歯科治療)のすすめ

口腔保健科

むし歯なんて痛くなければそれでいい、と思っていませんか？ むし歯や歯周病などのお口の問題は単に口だけにとどまらず、身体全体と関わっています。例えば、歯肉の炎症や歯の根の病気は心臓や様々な臓器に影響を及ぼすことがあります。また、手術の後にむし歯や歯周病が原因で、手術した部分に感染を生じることもあります。口の清掃状態が悪いと、手術が延期になることもあります。日程が決まっている手術が受けられない、手術を受けてもむし歯や歯周病のために治りが悪くなるのはもったいないことです。しかし、このようなことは一般の人にはまだ十分に認識されておられません。

写真は心臓の手術前に歯科受診された方です。むし歯や歯周病が進行しており感染性心内膜炎のリスクがありましたので大急ぎで歯を4本抜きましたが、入れ歯が間に合わず、し

ばらく食べるのに不自由することになりました。

当院では入院前に口のチェックを行い、必要に応じて入院前後の歯科治療、口腔ケアを行っています。口腔保健科は入院患者さんの歯科受診時の窓口として診療を担当しています。歯の治療はすぐに終わるものではありません。入院後では間に合わないこともありますので、かかりつけ歯科医院で定期健診を受け、日ごろから良好なお口を保つようにしましょう。



鹿児島
大学病院
看護部

中央大学病院(韓国)と 交流を開始しました

(訪問期間:平成27年9月17日~24日)



看護師には「人々に平等に看護を提供する」責務がありますが、国が「国際化」を推進している現在でも外国の方々が安心して病院を受診し治療を受ける環境が十分に整っているとは言い難い現状にあります。外国の方々が安心して受診するためには「その方々の文化・習慣、考え方を知る」必要があります。そこで国際的視野を広げるために、先ずは隣国である韓国の病院と病院間の学術協定を結び交流を開始しました。

9月17日~24日の韓国訪問では、看護部長の記念

講演や病棟見学、隣接する中央大学校赤十字看護大学看護実践教育センターを見学することができました。そして、平成28年1月17日から24日までの7日間は、鹿児島大学病院が韓国の看護師2名を迎えることになりました。私たちが多くのことを見聞したように、日本について、また私たちの看護について知ってもらい、互いの理解を深め、医療・看護の発展に繋がっていきたいと思います。



参加者の感想

韓国の看護師の方とコミュニケーションをとるのは初めての体験でした。外来・入院などの設備・システムを丁寧に教えていただき、興味深く充実した時間を過ごすことができました。平成28年1月の鹿児島での交流の際、日本の看護を伝えられるようハングルの学びを深めたいと思います。
C棟7階 南波千恵美

韓国中央大学病院は、政府よりMERS対策における優良な医療機関として表彰されていました。見学した救急部の一日の利用者は100名、休日は200名の方が利用していました。主に、中央大学病院のある黒石地区の住民の方々が安心して利用されていました。

褥瘡管理者:武亜希子

5日間の韓国人事交流で、韓国の医療・看護について様々なことを知ることができました。また、生活習慣や文化の違いからマネジメントが異なる中でも、「患者に寄り添う看護」を実践するための取り組みは、私たちと共通する部分であると感じました。国際交流を行うことで、日頃行っている自分の看護についても考えるよい機会でした。

6西病棟 市川善実

◀中央大学病院のキム・ソンドク病院長・キム・ボクスン看護部長、平成27年1月に来鹿されたリウマチ科教授とともに記念撮影



上：向窪看護部長が鹿児島大学病院看護部について講演しました。

下：矢印の2人は中央大学病院の看護師。5日間通訳をしてくれました。

今回の参加メンバー2人が、ちゃんと通訳できるように、独学だった韓国語を習い始めました。



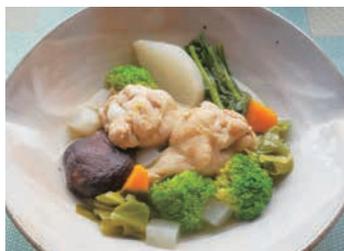
MERS対策用テント



**食楽
だより**

**色を食べる！
免疫力アップのかんたん料理♪**

年が明けて少しずつ日が長くなってきました。年末年始の疲れが胃腸に出やすい季節、風邪や花粉症も油断なりません。色とりどりの野菜はビタミン、ミネラルが豊富で、春に向けて免疫力を高めてくれます。旬の野菜を取り入れて、心もからだもほっこり温かくなりましょう。



食材の旨味が
たっぷり

**鶏手羽元と
野菜のスープ**

鍋に鶏手羽元と茸、生姜、水を入れて弱火で煮る。煮立ったらあくを取り、赤(かぼちゃや人参)白(大根やかぶ)緑(ブロッコリーやホウレンソウ)の野菜を入れ、ごましゃぶ用のたれ(一人当たり大さじ1弱)と柚子胡椒を少々加えてコトコトと煮込む。ご飯を入れると胃腸にやさしいコラーゲンたっぷりの雑炊になります。



焼肉や鮭も
具におすすめ

**ミルフィーユ
おにぎり**

大きな海苔の真ん中に味噌かつおぶし1パックを10cm程度に広げて乗せる。スライスチーズ、野菜、ちりめんじゃこ、ごはん、黒ごまの順に乗せ、海苔で包んでおにぎりにする。電子レンジで軽く温めると風味がたちます。お茶をかければ茶節風に食べられます。味噌汁を作る時間がない時やランチ、遅い夕食にも手軽な一品です。野菜をたっぷり入れてごはんを減らすとダイエット食に。

(絵:山内、文責:竹元)

Topics

今年もイルミネーションが点灯しました

平成27年12月1日(火)17時30分、鹿児島大学病院医科診療棟一階玄関前で、入院患者さんや熊本病院長が参加して、今年で8回目となるイルミネーション点灯式が開催されました。

点灯式は、参加者全員でカウントダウンを行い、熊本病院長と小児科に入院中の患者さんお二人が点灯スイッチを押しました。スイッチが押されると、高さ約15mのヒマラヤスギの木に付けられたブルーとホワイトの電球6,500球のイルミネーションが一斉に輝き、参加者から大きな拍手と歓声が上がりました。参加した患者さん方が記念撮影をして、楽しいひとときを過ごされました。

このイルミネーションは、入院患者さんが気持ちよく過ごせるよう、患者サービスの一環として財団法人親和会により提供されたもので、1月初旬まで点灯されました。



点灯したイルミネーション



点灯式の様子

表紙の写真

鹿児島大学病院と鹿児島市立病院は、医療技術職員等の人材確保・育成等について相互に連携協力し、医療の質の向上を図るため、2015年11月18日に市立病院にて連携協定締結式を行いました。本協定により長期研修等の内容充実を図ることが可能になり、来年度以降、具体的な連携を行っていきます。

鹿児島大学病院広報誌 **桜ヶ丘だより**〈40号〉

2016(平成28)年1月発行
発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692
<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>

*「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。